

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091500316
法人名	医療法人 静光園 第二病院
事業所名	グループホーム やまぼうし
所在地	福岡県大牟田市櫛野 3260-102
自己評価作成日	平成24年2月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月24日	評価結果確定日	平成24年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の理念に基づいて、本人の意思決定ができるよう介護に取組んでいる。この地域は高齢化率が高く、地域に開放している交流広場の利用が多く、施設にある畑作業も住民の協力により作物が収穫されている。収穫時は地域の人達に配ったり試食会等を行っている。また、市の地域交流拠点活動推進事業の一環として「元気バイ！ひばりヶ丘」を年数回開催している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

見晴らしいの良い高台に位置し、敷地内にはグループホーム「たけとんぼ」と地域交流施設「ひばりが丘」が併設されている。大牟田市の地域交流拠点活動推進事業に参画し、様々な活動や交流が盛んに行われている。また、旗・法被・帽子をつくり、地域の「あいさつ運動」には職員も積極的に参加している他、各家庭に「安心情報」を作成、配布する運動も行われている。母体は、地域密着型サービスに特化された介護事業や、障がい者の社会復帰施設等、様々な福祉事業を展開する医療法人であり、サービスの質の確保に法人全体で取り組み、地域拠点としての役割を担っている。併設施設まで続く長いウッドデッキ、地域の方の協力を得て生育や収穫を楽しむ野菜作り等、豊かな生活環境を有しており、今後も職員体制を確立し、家族機能や地域資源の活用に向けた働きかけを行い、更なる個別支援の迫り大いに期待される事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づき、毎日のミーティングにて利用者の情報を共有し安心して生活が営まれるよう環境作りをしている。	法人理念、福祉部理念のもとに、事業所独自の理念を掲げている。学習会やカンファレンス等にて取りあげ、職員への共有、浸透を図りながら、安心して暮らせる環境作りに取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組の一員となり地域の行事に参加し、交流広場・駐車場の開放や料理を地域の方々と一緒に作ったりして交流を深めている。	同敷地内にある、地域交流施設「ひばりヶ丘」の行事やサークル活動に職員と共に参加し、交流を深めている。また、母体法人主催のイベントにも協賛し、地域の方々とのかわりを持っている。はっぴや帽子、旗を作り、地域の方とともに「あいさつ運動」に参加している。大牟田市の徘徊模擬訓練実施を通じて、認知症についての啓発に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の徘徊模擬訓練の事務局となり、事前に認知症についての勉強会を開催している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の利用状況の推移や利用者の状態を報告し、意見を貰ったり、こちらから徘徊者等が出た場合を想定して協力をお願いしている。	併設する小規模多機能型事業所との合同開催となる。区長や公民館長、市担当者、包括支援センター職員等の参加を得て、定期開催されており、状況報告や意見交換を行い、運営への反映に努めている。	現状として、会議への利用者や家族の参加を得られておらず、今後も継続して働きかけを行う予定としている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議や事業所の行事に参加していただき現場を見て評価をいただき今後のケアに活かせるようにしている。	運営推進会議や事業所行事には、行政担当者の出席を得ており、現状を把握してもらっている。また、行政主催の研修等を通じて、情報共有や意見交換を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルそって周知徹底をしている。	定例会や内部研修において、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、言葉や対応についてもグループワークを行う等、職員の共有認識を図っている。玄関は施錠されておらず、センサーの使用もない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を開催し利用者に虐待が起きないように自覚してもらっている。		

福岡県 高齢者グループホーム やまぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当事業所においては成年後見制度の活用はないが研修会の中で学んでいる。	入居時に、権利擁護に関する制度について説明を行っている。職員研修は、地域包括支援センターの主催による勉強会等に積極的に参加している。資料を整備し、必要時には状況提供が行えるよう取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・契約解除時の説明は十分に説明を行い理解を得るようにしている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議や家族会への参加を求め意見や要望等を聞き反映させたいが出席率が悪く意見や要望が少ない。	運営推進会議や家族会へ、入居者や家族の参加を求め、働きかけを行っている。家族来訪時には、意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の施設長会議の中で利用状況や今後の予定を報告し、法人からの意見をいただいている。	併設グループホームとの合同ミーティングも行われ、企画書提出等、職員意見を積極的に収集し、レクリエーションや外出、業務改善等につなげている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	個別面談を行い職場環境についての意見を求め職員が働きやすい環境になるよう努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては、性別・年齢等制限はしていない。職員の資格取得や研修への参加など推奨している。	法人としての採用となり、年齢や性別による排除は行っていない。研修参加や資格取得に向けた配慮、また、個人面談の機会も設けながら、働きやすい職場環境作りに努めている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人主催の研修会へ参加し法人としての人権教育、人権を尊重するための意識を高めるよう努めている。	毎年、法人の主催による人権学習会が実施され、また、関係機関の研修にも積極的に参加しながら、人権教育、啓発に努め、職員の意識を高める取り組みを行っている。	

福岡県 高齢者グループホーム やまぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や福祉部内での研修を行い、職員のレベルアップを図っている。外部での研修会参加も勧めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症ケア研究会の研修に参加し他事業所との交流を図っている。また、他事業所からの実習も受入れている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者の方は施設見学や体験利用等していただき不安解消に努めている。その中で要望等把握し入居後のサービスに取り入れて行けるよう努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望者同様、家族の方がここへ入居させて良かったと思えるよ関係作りに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の関係先と連携を取りながら今、何を必要としているか、また他のサービスを含めた上で検討するよ努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の立場なって普通の生活があたり前にできるよう支援できるよう努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを大切にし、家族・職員共に本人の思いを支援できるよう努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた環境が身近な存在にあるよう支援に努めている。	同敷地内にある地域交流施設の行事や活動を通じた交流や、併設される小規模多機能型ホームの利用者の方々との交流等、地域性を共有する方々との関係性を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係を把握し、施設内でみんなが一緒になって楽しめる雰囲気作りに努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了になっても入院先へのお見舞いや亡くなられた時でも葬儀の参列したり家族との関わりが切れないうように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分らしい生活が維持できるよう意向の把握に努めている。	事業所独自の理念のもとに、一人ひとりの思いを常に大切に、行動や表情、感情等を察して、寄り添う支援に努めている。センター方式も一部活用しながら、情報収集や気づきの共有に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の情報収集に努めサービス利用に活かせるように努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いろんなところから情報を集めその人の暮らしの中に反映できるよう努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の中で関係者からの意見を求めその人に合った介護計画を作るようにしている。	本人、家族の意向を踏まえ、担当者会議での協議を行い、計画作成担当者及び各担当者を中心として介護計画を作成している。個別支援の計画作成やケアの実践、モニタリング・評価を継続して反映し、実績を残す工夫が大切です。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を個々に記録し情報の共有を行い介護に取り入れられるよう努力している。		

福岡県 高齢者グループホーム やまぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設した小規模があり、情報交換を行いグループホームへ入居された場合や応援体制に入った時スムーズに動けるよう取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	交流広場の利用者サークルにお願いして利用者がいつでも参加できるよう支援している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医をお願いしフォローできる体制にしている。受診・往診時は情報交換を行っている。	本人、家族の希望による、これまでのかかりつけ医への受診や往診を支援し、情報共有や話し合いを通じて、関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤していて、日常の中での心身状態を把握し健康管理に努めている。また併設の看護師とも情報交換を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報提供の交換を行い面会時等に主治医や看護師等から情報を得るようにしている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、終末期の対象者がいないが、今後、終末期のあり方についてチームを発足させ検討していなければならない。	重度化や終末期に向けた方針については、入居時に指針をもとに説明し、同意を得ている。終末期への支援のために用意された部屋も確保され、今後の支援のあり方については、課題として捉えている。	本人、家族の意向やニーズの把握、医療関係者や家族との連携体制、職員の理解や意欲等、関係者間で率直な意見交換を行いながら、チームとしての体制作りに取り組む予定としている。
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成し勉強会等行ない応急処置できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の消防訓練参加や事業所での避難訓練等実施している。今後は地域含めて訓練を実施を試みたい。	消防署の指導のもと、定期的に、昼夜を想定した防災訓練が実施されている。運営推進会議でも議題として取り上げ、地域との協力体制づくりに向けて働きかけを行っている。	運営推進会議等を活用しながら、地域との相互の連携について働きかけを継続し、協力体制の構築に向けて取り組む予定としている。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーの保護に注意を心掛けているが言葉使いの中で馴れ馴れしい言葉が聞こえてくるときがある。	事業所内の勉強会やミーティング等を通じて、入居者一人ひとりの理解と、人格や尊厳を損ねない対応について、共通認識を図っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いが実現できるよう日常会話の中で自己決定できるように働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の日々の暮らしに添えるように努めているが、ときには業務が優先してしまっているときがある。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と今日はどの服を着ますかと一緒になって決めている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを聞きメニューの中に取り入れるようにしている。またお手伝いや準備等も一緒にしていただいている。	法人内の連携も活かしながら、嗜好や栄養バランス等に配慮された献立が作成されている。買い物への同行や調理準備、後片付け等に、力を発揮する場面を支援している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が食事量や水分量のチェックしている。栄養バランスについては法人の管理栄養士がきて指導を行っている。		

福岡県 高齢者グループホーム やまぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕・寝の前と職員が付添い口腔ケアを行っている。入れ歯の方はポリドント使用。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンシートを参考に排泄介助誘導を行っている。出来るだけトイレを使用している。	パターンシートにより、個別の状況や間隔をチェックし、日中はさりげない誘導や介助により、トイレでの排泄を支援している。夜間は、状況やニーズを鑑み、個別の対応を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・食事の工夫・水分補給等を行い対応している。また、主治医の指示をいただくこともある。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴時間帯は決めていない。好きな時間に入浴していただくようにしている。	高台の眺望の良さを眺めることができる場所に浴室が設置され、山々の彩の変化を楽しみながら入浴が可能となっている。入浴スケジュールは特に設定せず、希望や状況にあわせて、また、時間帯にも柔軟な対応が行われている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の習慣に合わせるようにしている。不眠時はお話をしたり、お茶をだしたりリラックスできるように努めている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何故、薬が必要なのかを職員に理解していただき、個々の心身の状態観察を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の活性化を目指し買い物やレクリエーション等行ないリフレッシュの支援に努めている。		

福岡県 高齢者グループホーム やまぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設で過ごされる時間が多く、出来るだけ外へ出られるようドライブや散歩・家族との外出・外泊が出来るよう心がけている。	食材の買い物や隣接する地域交流施設行事への参加等の外出の機会がある。併設される小規模多機能型施設まで長く続くベランダは開放的であり、周辺環境にも恵まれている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する機会が少ないが、買い物時は出来るだけ本人で支払していただくよう援助している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らいつでも電話できるようにしている。面会が少ない家族には本人の思いを伝えるよう支援している。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の家庭の雰囲気作りに工夫をしている。	高台にあり、併設される小規模多機能型ホームまで続く長いウッドデッキが印象的である。ゆとりある室内空間は、木の温もりと採光に配慮され、開放的な空間となっている。畳スペースやソファが設置され、くつろぎの場所となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット式になっており好きな時に自分の部屋で過ごしていただいている。また、面会場所も別に設けている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は各自思い思いの配置をして頂いている。自由に使用して頂いている。	各居室には、本人、家族と相談しながら、使い慣れた物や大切な品が持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の場所が分かるよう部屋には名札・トイレ・風呂等の表示を行い安全な環境作りに努めている。		